

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：33925

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16630

研究課題名(和文) スンナ派神学派間の相互認識についての思想史的研究

研究課題名(英文) Theoretical studies on reciprocal recognition among the different trends in the Sunni theology

研究代表者

松山 洋平 (Matsuyama, Yohei)

名古屋外国語大学・外国語学部・講師

研究者番号：50748704

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：スンナ派の神学内に存在する、アシュアリー神学派とマートウリーディー神学派に代表される思弁神学の潮流と、ハンバリー学派に代表される反思弁神学の対立構造と相互認識を考察し、その古典的な形成と、現代の思想状況に対する影響を明らかにした。
研究成果は、学会発表や講演のほか、2冊の単著『イスラーム神学』(作品社)、『イスラーム思想を読みとく』(筑摩書房)を執筆、出版することによって広く公表した。

研究成果の概要(英文)：Considering the dynamics among different tides of Sunni theologies, especially conflict and mutual recognition between tide of Sunni Kalam that is represented by Ash'ari school and Maturidi school and anti-Kalam trend represented by Hanbali school, and modern theological articles, I clarified what sort of impact the classical conflict has on contemporary Islamic thoughts.

研究分野：イスラーム思想史

キーワード：スンナ派 イスラーム神学

1. 研究開始当初の背景

イスラーム教スンナ派には、アシュアリー学派・マートゥリーディー学派・「ハディースの徒」という三つの神学的潮流が存在する。しかし、スンナ派の神学史はこれまでアシュアリー学派のみを軸に論じられてきた。つまり、アシュアリー学派の発生と他学派との攻防の歴史が、スンナ派思想史の主要な側面として語られ、スンナ派の教義として、アシュアリー学派の信条が紹介されてきた(たとえば、中村廣治郎『イスラーム思想と歴史』東京大学出版会、D. B. Macdonald, *Development of Muslim Theology, Jurisprudence and Constitutional Theory*, Charles Scribner's Sons を参照)。

「ハディースの徒」と他学派との論争が取り上げられることはあったが、特定の地域・時代における事例の歴史的な展開に焦点が当てられ、神学の内容を検討する種類の研究ではなかった(たとえば、G. Makdisi, *History and Politics in Eleventh-Century Baghdad*, Variorum, 1991; A.C.S. Peacock, *Early Seljuk History*, Routledge, 2010)。

マートゥリーディー学派に至っては、「アシュアリー学派と並ぶスンナ派二大神学派である」との見解が、スンナ派のムスリムの多数派の認識であるにもかかわらず、スンナ派神学史の全史を扱う研究書において、極めて副次的な位置づけしか与えられてこなかった。

しかし実際には、「ハディースの徒」とマートゥリーディー学派は、スンナ派神学の形成において、アシュアリー学派と同様の重要性を持っている。

「ハディースの徒」は、思弁神学派であるアシュアリー学派とマートゥリーディー学派の好敵手としてスンナ派神学の一翼を担ってきた。

マートゥリーディー学派は、後期スンナ派神学の主要な構成学派として、アシュアリー学派とならぶ「正統」神学派としての役割を果たした。

この三つの神学的潮流は、いずれも今日に至るまで存在し、それぞれが独自の影響力を一般信徒に及ぼし続けている。

近年、一部の研究者の間で、スンナ派神学の形成過程の説明においてアシュアリー学派に過度の重点を置く姿勢を改め、マートゥリーディー学派の固有の重要性を指摘する声が出始めている(Mustafa Cerić, *Roots of Synthetic Theology in Islam*, ISTAC, 1995)。また、拙稿(松山洋平「マートゥリーディー学派研

究の諸側面」『日本中東学会年報』29-1号、2013年、145-159頁)で明らかにしたように、マートゥリーディー学派関連の神学書の校訂・出版の作業は近年急速に進んでおり、同学派の主要神学者の著作が市場に出揃った段階にある。

スンナ派神学史研究に今日求められていることは、特定の学派(アシュアリー学派)に傾倒したスンナ派神学史の記述を改め、アシュアリー学派・マートゥリーディー学派・「ハディースの徒」という三つの軸を中心に展開される後期スンナ派神学史の描出を行なうことであり、その条件が近年ようやく整えられたのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アラビア語で書かれたイスラーム神学書の文献研究によって、イスラーム教スンナ派に内在する三つの神学的潮流であるアシュアリー学派・マートゥリーディー学派・「ハディースの徒」が、互いをどのように認識し、互いの正統性をどのように評価してきたのかの思想史を考察することである。

三つの神学的潮流の相互認識を記述することは、スンナ派神学の輪郭をより正確に描くことにつながる。

更に、この三つの神学的潮流のあいだの緊張関係は、現代におけるスンナ派の諸勢力間の対立(特に、体制派に武力行使を行なういわゆる「過激派」と、体制派の「穏健派」の間の思想的な対立)にも第一義的な影響を与えており、イスラーム諸国の現代情勢を分析する上でも有効な視角を提供するものである。

3. 研究の方法

研究の方法は、主にアラビア語で書かれたイスラーム神学関連書籍、およびイスラーム法学関連書籍の文献研究による。

10世紀以降に書かれた、アシュアリー学派・マートゥリーディー学派・「ハディースの徒」それぞれの潮流に属する著者が著した著作中に記載された、他学派についての評価を主な考察対象とする。

研究成果を、著作(想定している仮題『スンナ派の信条: イスラーム神学入門』)の執筆および出版によって公開することを最終目標に、研究を進めた。

著作は大きく二つの部に分け、第一部では、アシュアリー学派、マートゥリーディー学派、「ハディースの徒」それぞれの潮流の相互認

識の構図と展開についてまとめ、第二部では、イスラーム神学上の主要な論点における、三つの神学潮流間の見解の相違を明示しながら、スンナ派の信条を解説する予定であった。

この著作は、研究の中盤に、『イスラーム神学』（作品社、2016年）と改題し、出版した。

4. 研究成果

スンナ派の神学内に存在する、アシュアリー神学派とマートゥリーディー神学派に代表される思弁神学の潮流と、ハンバリー学派に代表される反思弁神学のあいだには、前近代においては、相互を異端視するような対立構造が存在した。

この対立は、シャーフィイー法学派とマールキー法学派がアシュアリー学派に帰属し、ハナフィー法学派がマートゥリーディー学派に帰属し、ハンバリー学派が「ハディースの徒」を構成するとの一般式認識が拡大し、学派の形成が落ち着きを見せた十六世紀以降には、沈静化の傾向にあった。たとえば、ハンバリー学派の法学者であっても、アシュアリー学派とマートゥリーディー学派を「スンナ派の構成学派」として認める言説が目立った。

しかしながら、近代においてサラフ主義が勃興して以来、思弁神学的潮流と「ハディースの徒」の潮流の従来に対立構造が呼び起され、強調される状況が生まれている。これは、サラフ主義が、ハンバリー法学派のなかでも、特に、思弁神学の流れに批判的なイブン・タイミーヤの系統の教説を踏襲するためである。

「過激派」や「穏健派」をめぐる今日の言説の形成においても、この2つの潮流の対立構造が大きな役割を果たしている。

研究成果は、学会発表や講演のほか、2冊の単著『イスラーム神学』（作品社）『イスラーム思想を読みとく』（筑摩書房）を執筆、出版することによって広く公表した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計1件）

松山洋平「アブルバカー著『クッリーヤート』における「承認」と「確信」」日本宗教学会

第75回学術大会、2016年9月10日、於：早稲田大学。

〔図書〕（計2件）

松山洋平『イスラーム神学』作品社、2016年1月、全528頁。

松山洋平『イスラーム思想を読みとく』（ちくま新書）筑摩書房、2017年10月、全256頁。

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等：なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者：松山 洋平（MATSUYAMA Yohei）

名古屋外国語大学・外国語学部・講師
研究者番号：50748704

(2) 研究分担者：なし

（ ）

研究者番号：

(3) 連携研究者：なし

（ ）

研究者番号：

(4)研究協力者：なし
()